

着任の御挨拶 ～自己紹介を兼ねて～

埼玉県立歴史と民俗の博物館長 関 義 則

この4月1日付けで行田市のさきたま古墳公園の中にあります県立さきたま史跡の博物館長(兼嵐山史跡の博物館長)から当博物館の館長に着任いたしました。専門は、日本考古学で、古墳から出土する武器や馬具などの副葬品研究に取り組んでまいりましたが、近年は古墳の立地や構造など古墳そのものに関心をもっています。

思い起こせば、昭和57年に埼玉県の学芸員として採用され、最初に赴任いたしましたのが当館の前身である県立博物館でした。歴史課、資料課、普及課を1年ずつ経験し、3年で最初の転出となりました。2年後に戻り2度目は企画展示課に5年間ずっと在籍し、3度目は企画展示課、常設展示課とまわり資料調査課を最後に平成12年度末に5年間の在籍で3度目の転出となりました。通算13年の博物館勤務のうち展示関係部署に10年間在籍しておりましたので、その間さまざまな展覧会を担当させていただき貴重な経験を積むことができました。特に思い出深いのは、平成11年度に開催した特別展「アイヌの四季と生活」です。これは財団法人アイヌ文化振興研究支援機構と共催で実施したもので平澤屏山という絵師の作品を中心とした展覧会でした。田中学芸員(現在の田中副館長)と二人で担当し、資料は大英博物館やドイツの博物館からも借用する大規模なもので、本展が直接担当した最後の展覧会となりました。

今回は18年振り4回目の博物館勤務となります。だいぶ間隔が空きましたので、その間に館名や組織も変わり、組織ばかりでなくボランティア制度の導入や友の会の設立など運営体制も大きく様変わりしました。まさに隔世の感がありますが、驚いてばかりもいられません。昨年6月に就任いたしました県教育委員会の小松弥生教育長は、今年4月の訓示の中で、さまざまところと連携を強めることで、これまでの枠を超えた新しいアイデアが生まれるのではないかと述べています。異質なものが混ざり合うことで生まれる、いわば“化学変化”が期待されているということだと思えます。

東京オリンピック・パラリンピックを目前に控え、国をあげて観光振興への取り組みが推進されるなかで、文化施設・社会教育施設もその一翼を担うものとして、新しい取り組み・アイデアが一層求められています。博物館のミッション・使命はしっかりと保ちつつ、新しいことにもチャレンジしてまいりたいと考えています。

学芸員の第一歩を踏み出した館にまた戻りましたことを機に、精いっぱい取り組む所存ですので、宜しく願い申し上げます。

お知らせ

今後のイベントスケジュール

* 申込は『JUNO』に応募要項が掲載されてからお願いします。

ホームページ:<http://junosaitama.net/> ブログ:<http://hakutomobulog.at.webry.info/>

- | | | |
|-------------|-------------------------|---------|
| ○ 5月11日 (金) | まち歩き研究会「毛呂山・鳩山町の史跡と文化財」 | <前号で紹介> |
| ○ 5月26日 (土) | 古道探索倶楽部 「第24回鎌倉街道を訪ねて」 | <前号で紹介> |
| ○ 5月27日 (日) | 総会・講演会「古写真でみる幕末・明治維新」 | <前号で紹介> |
| ○ 6月16日 (土) | 見学会「岩槻・忍城 落城物語り」 | <今号で紹介> |
| ○ 7月6日 (金) | まち歩き研究会「伊佐沼から川越城まで」 | <次号で紹介> |
| ○ 7月15日 (日) | 講演会 「中世武蔵の道と交易」(仮題) | <次号で紹介> |

講演会と特別展示『保科正之と生母・志津の安産祈願文』

平成30年(2018)/03/11に開催。超満員の参加者

講演会と特別展示『保科正之と生母・志津の安産祈願文』は、会員の他に多くの一般参加者が訪れ、記録に残る講演会になりました。講師は作家の中村彰彦氏。直木賞作家ですが、会津関係の著作も多く研究者の側面も持っています。今回のテーマは、名君と呼ばれる会津藩初代藩主で徳川将軍輔佐役だった保科正之の出生にまつわる興味深い「事実」を通して、この人物像が誕生した歴史の真実ということになります。

保科正之は徳川2代将軍秀忠の寵愛を受けた侍女の志津(静)が生んでいますが、秀忠の正室お江の方の「嫉み」を受けたため、信州・高遠藩の保科家に養子として入り、成長してから秀忠の遺名を受けて徳川将軍輔佐役になって初期幕府政権の運営に大きな力をふるいました。こうした人物の出生の謎はまさしく歴史上のエピソードとして興味がつきません。さらに生母・志津(静)は、養母である見性院とのつながりで現在の埼玉県さいたま市で正之を出産していますが、正室の圧迫の中での出産が無事にできるようにということで大宮の氷川神社に安産祈願をしています。そのときの祈願文が当時この氷川神社の宮司をしていた岩井家に残されており、現在はさいたま市の文化財になっています。今回は講演に合わせて、この祈願文を展示するという企画になりました。(筑井信明 記)



プレミアム講座『埋蔵文化財の保護について』

平成30年(2018)/03/14に開催

書上元博前館長より～発掘調査はなぜ行われるのか?～という副題付きで、取って置きのお話を披露していただきました。出席者は58名。書上前館長は考古学の学芸職員として埼玉県に採用された後、35年の職務期間中、埋蔵文化財保護の行政に20年携わってこられた行政経験豊富な方です。埋蔵文化財の取り扱いについては、遺失物法の適用がなされて珍妙な処置もなされたこと、文化財保護法での所有者規定や発掘調査における費用負担の問題など、なるほどそうだったのかというお話が次々に出てきます。「周知の埋蔵文化財包蔵地」が埼玉県内だけでも約一万箇所あることに驚かされますが、それらは各市町村の教育委員会で遺跡地図により知ることができるそうです。また、「埼玉稲荷山古墳の鉄剣は誰のもの?」、「小判などのお宝が出てきたらどうなるのか?」などの分かり易い実例は特に興味を引くものでした。

最後のお話で、「自分の家が埋蔵文化財包蔵地の上に立っていたら不幸か?」という設問に対して、あながち、不幸とは言えないのでは? 災害に強い選ばれた土地なのだからという解答を用意されていたのは、さすがに文化財行政の理念が自家薬籠中の物となっておられる先生の真骨頂を見るようでした。(西本豊司 記)

「赤山街道・越谷道をたどるシリーズ」最終回

友の会・第23回古道探索倶楽部 3月31日に開催

参加者23名。天気の良い1日でした。朝はちょっと涼しいかな?という感じでしたが、歩くとちょうど良い気温でした。駅の下の広場で集まって本日の行程説明を受けた後、舎人氷川神社に向かいました。本殿の彫刻がとても良いのですが、周りが金網に囲まれてちょっと見にくいかな?という感じでした。見沼代親水公園の散歩道を通りながら、諏訪神社にいくと本殿と鳥居がまっすぐになっていませんが、これは、女神の毛長神社の方を向いているといわれています。西門寺・古千谷氷川神社をへて、伊興氷川神社に。奥東京湾から足立区の中で最も早く陸地になった場所と言われていて、近くに伊興遺跡があります。境内にある木は足立区の指定樹木として管理されているとのこと。



その先は、寺町になっていて、関東大震災の時に浅草から移転してきた寺院が集まっているところです。助六寿司の名称の元となったと言われる、助六と揚巻の塚がありました。また、五代目三遊亭圓楽の生まれた寺だとのことで、表に寄席の日程表などが飾られています。法受寺では、五代将軍綱吉の生母である桂昌院のお墓と牡丹灯籠の碑もあり、江戸から移転してきたことがよくわかりました。(中略) 増田橋跡で赤山街道と日光道中の道標を見たあと、島根鷲神社へ、ここの祭神は日本武尊で、古代の海岸線で島のようにできた場所だとのことです。国土安穩寺へいくと、将軍の日光参詣や鷹狩りの際の休憩所などになったとのことで、かなりおおきな寺院です。梅島駅から小菅駅に、電車で移動し小菅御殿へ、現在は小菅拘置所になっていますが、正門の横に石塔がありました。その後、小菅駅にて解散しました。(ブログもご覧ください)

久伊豆神社の除堀獅子舞見学及び周辺散策

友の会・お祭り研究クラブ 4月22日に開催



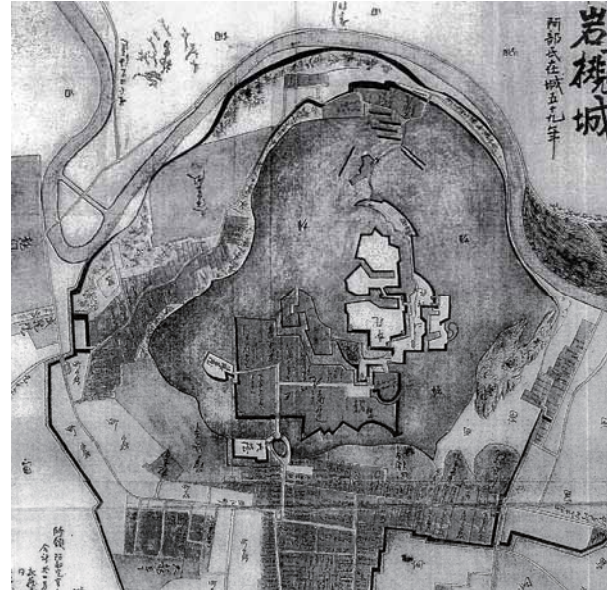
除堀(よけぼり・久喜市)の獅子舞は、除堀村の西の方にある古池から浮き上がった雌獅子を、村人が医王院に奉納し、雨乞いをしたことが起源とされている。

(中略) 今回は時間の都合上、江面(えづら)第二小学校と七社大権現社での舞を見学する。幾多の変遷を得て、毎年4月19日前後の日曜日に地域の神社に獅子舞を奉納している。獅子は、朋冠、雄獅子、雌獅子です。その他に天狗(猿田彦)や万灯持ちなどがあります。また、獅子連中では笛を吹いたりする者ですが、かつては氏子の17歳以上の男子に限られていましたが、近年では、後継者育成の視点から江面第二小学校にクラブ活動として郷土芸能クラブを置き、技術の習得と伝承に努めている。

13時過ぎのバスで白岡市内の歴史を求め動く。慈覚大師円仁によって、平安時代初期に天台宗として開かれ、その後、曹洞宗に改宗され、境内には鎌倉時代から室町時代の特徴を持つ五重塔や板石塔婆が残るほか、徳川家康以来歴代将軍からの朱印状を寺宝として伝えられている興善寺、蓮田市の綾瀬貝塚と並び元荒川流域最奥部の貝塚として重要な位置を占め、黒浜貝塚群と同様、縄文時代前期に形成された貝塚があり、白岡八幡宮の別当寺を努めた古刹の正福院並びに奉納絵馬群が多くあり、近世後期から昭和時代までを中心とする白岡八幡宮への信仰、地域の習俗を知ることが出来る貴重な資料を持つ白岡八幡宮に足を向ける。(ブログもご覧ください)

天正十八年、秀吉小田原征伐

岩槻・忍城 落城物語



天正十八年、豊臣秀吉は「関東惣無事令」を發し、総勢二十二万の大軍をもって小田原城を包圍し、支城を次々と攻め落としていった。岩槻城も五月二十二日遂に落城し、最後まで抵抗していた忍城も小田原落城に従い七月十六日やむなく開城した。今回は岩槻城忍城の攻防を、城絵図を手にも、『北条記』『成田記』『秀吉朱印状』を読みながら巡りたいとおもいます。

日時：6月16日（土）午前8時

集合：大宮駅西口ソニックビル西側

参加費：6,000円（バス代・入館料など含む）

兵糧米(昼食)、具足(歩きやすい靴)は各自抜かりなく用意備えるべし

コース：大宮駅西口…慈恩寺…鎧宮八幡神社…愛宕神社（大構）…岩槻城址（障子堀・空堀・追手門跡など）…丸墓山古墳・三成の陣（昼食）…石田堤史跡公園…行田郷土資料館…忍諏訪神社（諏訪曲輪跡）…佐間天満社・高源寺（佐間口の攻防）…大宮駅西口

申込み：往復ハガキに見学会名・住所・氏名・会員番号・電話番号を明記の上〒337-0042 さいたま市見沼区南中野 1183-10 斉藤文孝 宛へ

定員：45名（定員に成り次第締め切らせていただきます）

その他：ご家族・友人は同伴参加できます。座席希望あれば明記ください。